

英語班 分科会資料

【研究テーマ】

豊かな未来を切り拓く子供の育成

～新たな価値をつくり出す

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のある授業を通して～

公開授業の視点（英語科の目指す子供の学びの姿）

(1) 個別最適な学び

- ア 自分のめあてをもてていたか。
- イ 自分の考えをもてていたか。
- ウ 自分の学びを振り返り、次につなげようとしていたか。

(2) 協働的な学び

- エ 自分の考えを広げたり深めたりして、学び合いを自分の表現に生かしていたか。

(3) 見方・考えをはたらかせた学び

- オ 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、表現(コミュニケーション)していたか。

※ 授業参観は、視点に沿って、子供の姿から具体的に観察メモをとる。

時間の目安	流れ	役割
14:35～(5)	1 はじめの言葉 2 紹介 3 流れの説明	司会
14:40～(20)	4 グループで自己紹介 5 視点に沿って感想・意見交換 ・目指す姿に迫れた子供の姿と背景 ・目指す姿に迫れなかった子供の姿と背景 ・手立てのよさや改善策の検討 など	進行
15:00～(10)	6 各グループの発表 (各班のまとめの掲示)	各グループの発表者
15:10～(5)	7 おおまかなまとめ	司会
15:15～(30)	8 指導・助言	講師
15:45～15:50(5)	9 終わりの言葉	司会

単 元：Welcome to Japan

(NEW HORIZON Elementary English Unit 7 [東京書籍])

指導者：武石 健太郎・坪山 麻衣子 (JTE)

講師：県総合教育センター 教科教育研修課 研究主事 真正 基道
鹿屋市教育委員会 学校教育課 指導主事 山内 誠

令和4年2月10日(木) 鹿屋市立鹿屋小学校
公開授業 5年1組(北校舎3階)

1 単元 Unit 7 Welcome to Japan

2 単元の目標

- ◎ ALTに日本の行事が楽しみだと思ってもらえるように、日本の文化や年中行事などについての情報を聞き取ったり、既習事項や音声で慣れ親しんだ基本的な表現を用いて、行事やその行事でできることなどを伝えたりすることができる。

○ 発表例

Hello. I'm ~. We have Fireworks festival in summer.

You can see big fireworks. It's beautiful.

You can buy delicious foods. I like shaved ice. It's nice.

3 単元の評価規準 ※ 中心領域 「聞く」・「話す〔発表〕」

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	〈知識〉 四季や年中行事，様子を表す言い方，We have ~ in ~. What do you do on ~? Why do you like ~? の表現について理解している。 〈技能〉 日本の文化や年中行事などについての具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。	ALTに日本の行事の楽しさを伝えられるように、日本の文化や年中行事などについての具体的な情報を聞き取っている。	ALTに日本の行事の楽しさを伝えられるように、日本の文化や年中行事などについての具体的な情報を聞き取るようとしている。
話すこと〔発表〕	〈知識〉 四季や年中行事，様子を表す言い方，We have ~ in ~. What do you do on ~? Why do you like ~? の表現について理解している。 〈技能〉 知識を使って、行事やその行事でできることなどについて We have ~ in ~. You can see/eat/play/do ~. It's beautiful/delicious/fun/exciting. などを用いて、考えや思いを伝えるために必要な技能を身に付けている。	ALTに日本の行事が楽しみだと思ってもらえるように、自分が選んだ行事やその行事でできること、感想などについて、既習事項や音声で慣れ親しんだ基本的な表現を用いて伝えている。	ALTに日本の行事が楽しみだと思ってもらえるように、自分が選んだ行事やその行事でできること、感想などについて、既習事項や音声で慣れ親しんだ基本的な表現を用いて伝えようとしている。

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

これまでの学習で、児童は自分のことを友達に紹介したり、鹿屋小の先生や鹿屋小周辺のおすすめの場所をALTに紹介したり、鹿屋の特産物にちなんだオリジナルメニューを考えて友達やALTとレストランでのやり取りを楽しんだりする活動を行ってきた。

これまで学んできた「自分」や「地域」に関する題材を、本単元ではさらに「日本」へと広げ、ALTに「楽しみだ」と思ってもらえるような日本の行事を紹介する活動を設定した。ここではまず、行事を紹介するために必要な表現を聞き取る活動を行い、次に聞いた表現をもとに話す活動を行う。既習事項や音声で慣れ親しんだ基本的な表現を用いて、自分の思いを伝えることができるようにしたい。伝える相手を「ALT」に設定することで、英語の見方・考え方を働かせ、相手の人柄や出身国の文化等、その背景にも思いを巡らせることができるようになることもねらいとしている。

(2) 児童の実態 (質問紙 令和3年11月29日 32名実施)

① 「授業の中で次にあげる活動を『楽しい』と感じるか」に対して「はい」と答えた割合(複数選択可)		
・ スライドを用いた Small Talk (81%) ・ 友達や先生と英語でやり取りをする活動 (60%) ・ 友達や先生の話す英語を聞く活動 (50%)	・ 書く活動 (71%) ・ 友達や先生に英語で紹介する活動 (56%) ・ 読む活動 (47%)	
② 4月に比べて、英語を使った対話が上手になってきていると思うか。		
・ 思う (69%) ・ 思う (69%)	・ 少し思う (31%) ・ あまり思わない (0%) ・ 思わない (0%)	
③ 分からない表現や言いたいけど言えない表現があった時、どのように解決しているか (自由記述)		
・ 友達に聞く (78%) ・ 黒板を参考にする (16%)	・ 先生に聞く (63%) ・ 教科書を見る (13%)	・ モデル動画を見る (25%)
④ 分からない表現や言いたいけど言えない表現があった時、今後はどのように解決していきたいか。(複数選択可)		
・ 友達に聞く (91%) ・ 黒板を参考にする (36%) ・ 自由記述 [先生や友達の真似をする (13%), 英語教室の先生に聞く (3%)]	・ 先生に聞く (86%) ・ 教科書等を使って自分で調べる (31%)	・ モデル動画を見る (75%)

毎時間の導入で行う Small Talk を楽しいと感じている児童が多いことから、既習事項や本単元で扱う表現を意図的に Small Talk の中に位置付けることで、効果的に表現の定着を図ることが期待できる。全ての児童が、授業の中で英語を使って対話をする力が高まってきていることを実感しているものの、言えない表現があった時は友達や先生に聞いて解決することが多く、課題解決の方法は限定的なものと言える。そこで、教師が児童個々の力を考慮したうえで学習方法を複数準備することで、自分に合った方法で課題を解決していくとともに、六年生や中学校での学習にも生かせる「学び方」を身に付けることができると考えられる。

5 指導に当たって(単元)

(1) 個別最適な学びを充実させるための教師の手立て

ア 自分のめあてをもてるようにするために

- 第1時に単元目標や最終的なゴールの姿を児童と共有し、伝える目的と伝える相手、伝える方法を確認する。また、既習の言語材料を活用し挑戦していただくことで単元目標やゴールの姿に迫るためにはどのような表現が必要か考える時間を設ける。

イ 自分の考えをもてるようにするために

- 第2時以降に行う Small Talk では、教師対児童を中心にしたやり取りを、視覚教材(スライド)を用いて行う。その際は既習事項や、本単元で使う表現も段階的に扱うようにする。
- 発表に向けて練習を行う段階では、教科書やタブレットを用いて自分で調べる、板書を参考にする、先生や友達に聞く、モデル動画を見る、自分が話す姿を撮って見る、ペアで見せ合う等の方法を複数提示し、個々の課題に合った方法で練習を行う時間を設ける。

ウ 自分の学びを振り返り新たな問いの発見や次の学習、日常につなげられるようにするために

- 「友達や先生とのやり取りでよく聞き取れたこと」、「友達や先生とのやり取りでうまくできたこと」、「言えるようになりたい表現」の3つの視点で自分の学びを振り返る活動を設定する。
- 単元を振り返る活動を行う際は、発表に至るまでの学習過程も振り返りの視点に入れることで、効果的な課題解決の仕方を考え、次単元にも生かせるようにする。

(2) 協働的な学びを充実させるための教師の手立て

エ 考えを広げたり深めたりすることができるようにするために

- 聞く活動においては、音声を聞く前は絵の内容について、聞いた後は聞こえた表現についてペアで英語で確認する時間を設ける。
- 話す活動においては、互いの発表を聞き合う時間を設定する。また、思いを伝えるためにもっと効果的な表現はないかペアやグループで話し合ったりアドバイスをしたりする時間を設定し、自分の表現に生かしていく。

(3) 見方・考え方を働かせた学びを充実させるための教師の手立て

オ 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、表現(コミュニケーション)することができるようにするために

- 「ALT に楽しみだと思ってもらえる」という部分に着目させることで、単に自分の好きな行事を伝えるのではなく、ALT の人柄や出身国の文化、来日理由等、相手の背景にも思いを巡らせたうえで、発表内容を考えることができるようにする。
- 難しい表現を無理に使うのではなく、既習事項で使える表現はないか、言いたいことを簡単に言い換えることはできないかという視点を大切にし、Small Talk で意図的に既習事項を取り入れるようにする。

6 指導計画

時間	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ ※評価方法
1	<p>世界に広がる日本文化を考え、単元計画を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> Over the Horizon を活用し、世界で親しまれる日本の文化について考える。 ALT からのビデオレターを視聴する。 既習の言語材料を活用し挑戦する。 単元の見通しをもつ。 <p>チャイニー先生に「楽しみだ」と思ってもらえるように日本の行事を伝えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ALT からのビデオレターを視聴することで、意欲を高め、目標をもって取り組むことができるようにする。【個別最適ア】 「チャイニー先生が楽しめるような行事」を「チャイニー先生」に「直接伝える」ことを確認することで、伝える目的、相手、方法をおさえ、見通しをもって活動に取り組むことができるようにする。【個別最適ア】【見・考オ】 既習の言語材料を活用して挑戦してみることで、自分の課題を明確にし、単元目標を達成するために必要な表現(月・季節・行事・できること・様子を表す言葉・遊び等)を考えたり、自分なりのめあてをもったりすることができるようにする。【個別最適ア】
2	<p>日本の行事を伝えるために必要な表現を聞いて、自分の発表に生かそう。①</p> <ul style="list-style-type: none"> Small Talk を行う。(いろいろな季節の行事) 音声で基本的な表現に慣れ親しむ。 どの行事で何を伝えたいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> Starting Out (No.1~No.3) を行うことで、音声で基本的な表現に慣れ親しむことができるようにする。 教科書に描かれている絵の内容について児童-児童、教師-児童でできるだけ英語を使って確認することで、見通しをもって聞くことができるようにする。 動画の内容に関する簡単な質問を行うことで、児童が目的をもって視聴したり、聞き取れているかどうか教師が把握したりできるようにする。【個別最適イ】
3	<p>日本の行事を伝えるために必要な表現を聞いて、自分の発表に生かそう。②</p> <ul style="list-style-type: none"> Small Talk を行う。(行事当て3ヒントクイズ) 試しの発表を行う。 音声で基本的な表現に慣れ親しみ、発表に生かせそうな表現を見つけたり、考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> Starting Out (No.4~No.5) を行うことで、音声で基本的な表現に慣れ親しみ、自分の発表に生かせそうな表現を見つけたり、考えたりすることができるようにする。 聞こえた言葉や文について、できるだけ英語を使って友達と話をさせることで、アウトプットする機会を増やし、聞いた内容を確かなものにできるようにする。【協働的エ】 動画の内容に関する簡単な質問を行うことで、児童が目的をもって視聴したり、聞き取れているかどうか教師が把握したりできるようにする。【個別最適イ】
4	<p>日本の行事やその行事ですること、できることなどを伝えるために必要な表現を使って、やり取りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> Small Talk を行う。(行事、できること) 試しの発表を行う。 発表に生かせそうな表現を考えたり、既習事項を用いてやり取りをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> Let's Listen1,2 を行うことで、You can~.や It's~.等の表現に音声で慣れ親しみ、発表に生かせそうな表現を考えることができるようにする。 教科書に描かれているのは何の絵なのか尋ねたり、スペルを確認したりすることで、見通しをもって聞く活動を行うことができるようにする。 3ヒントクイズを行い、ペアでクイズを出し合うことで、既習表現に十分親しむことができるようにする。 <p>※ 行動観察、振り返りカード</p>
5 (本時)	<p>紹介したい行事やその行事ですること、できることなどを伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> Small Talk を行う。(行事、できること) 試しの発表を行う。 伝えたい行事やその行事ですること、できることを伝える練習をする(①)。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表練習を行う際は、板書を参考にし、先生や友達に聞く、モデル動画を見る、自分が話す姿を撮って見る等の中から、自分の課題にあった方法を選択して練習できるようにする。【個別最適イ】 中間指導を行うことで、伝える相手の立場や伝える目的を再度明確にしたり、正しい発音を共有したりできるようにする。【協働的エ】 もっと効果的な表現はないか、発音や声のトーン、大きさ、速さはどうか等のアドバイスを時間を設けることで、発表をよりよいものに行うことができるようにする。【協働的エ】 <p>※ 行動観察、動画、振り返りカード</p>
6	<p>チャイニー先生に紹介したい行事を伝えるための準備をしよう。(ポストカード作り、練習)</p> <ul style="list-style-type: none"> Small Talk を行う。(行事、できること) タブレットを活用し、ポストカードを作る。 伝えたい行事やその行事ですること、できることを伝える練習をする(②)。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表練習を行う際は、板書を参考にし、先生や友達に聞く、モデル動画を見る、自分が話す姿を撮って見る等の中から、自分の課題にあった方法を選択して練習できるようにする。【個別最適イ】 中間指導を行う際は、発音だけでなく、発表の態度(タブレットの見せ方、表情、目線等)についても指導を行う。【協働的エ】 <p>※ 行動観察、動画、振り返りカード</p>
7	<p>チャイニー先生に「楽しみだ」と思ってもらえるように日本の行事を伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の行事を ALT に伝える。 単元の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT は、発表を聞いた感想を児童に伝えとともに、個に応じて簡単な質問を行う。【個別最適イ】【見・考オ】 発表後は、発表に至るまでの取り組みについても称賛することで、次単元以降への意欲付けを行うことができるようにする。【個別最適ウ】 <p>※ 行動観察、振り返りカード</p>

7 本時 (5/7)

(1) 目標

- 日本の行事やその行事でできること、感想などについて、既習事項や音声で慣れ親しんだ基本的な表現を用いて伝えることができる。【話す〔発表〕】

(2) 指導に当たって

個別最適な学び	<ul style="list-style-type: none"> 発表に向けて練習する際は、板書を参考にする、先生や友達に聞く、モデル動画を見る、自分が話す姿を撮って見る等の中から個人の課題に合った方法を選択し、練習することができるようにする。
協働的な学び	<ul style="list-style-type: none"> Activity を行う際に、どんな表現を使えば思いが伝わるか話し合わせたり、発音や声のトーンや大きさ、速さ等のアドバイスをさせ合ったりすることで、自分の表現に生かし、発表をよりよいものにすることができるようにする。
見方・考え方を働かせた学び	<ul style="list-style-type: none"> Activity を行う際、伝える相手の立場や伝える目的を再度明確にすることで、相手意識をもって伝えることができるようにする。 <p>※ 目的・場面・状況が設定された言語活動を行う際に「見方・考え方」が働く。</p>

(3) 実際

時間	主な学習活動	教師の働きかけ (※評価) ○ HRT ☆ JTE	基本的な語彙・表現
15	<p>《Warm-up》</p> <p>1 あいさつをする。</p> <p>2 クラスルームイングリッシュの練習をする。</p> <p>3 Small Talkを行う。</p> <p>4 試しの発表を行う。</p> <p>5 本時のめあてを確認する。</p> <p>紹介したい行事やその行事でできること、できることなどを伝えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ All English time を設定する。 0☆ 使用場面を確認しながら復唱させることで、やりとりの中で自然に使うことができるようにする。 0☆ 既習事項と本単元で扱う内容を取り入れ、表現に慣れさせておくことで、話す活動へとスムーズにつながるようにする。 ○ 試しの発表を行うことで、自分の課題を明確にし、目的をもって話したり聞いたりする活動を行うことができるようにする。【個別最適A】 ○ 伝える目的、相手、方法を確認することで、全員が単元のゴールに迫ることができるようにする。【個別最適A】【見・考オ】 	<p>How are you? What time is it now? Nice try.</p> <p>We have ~ in ~. What do you do on ~? You can eat/see/enjoy ~. It's ~.</p>
25	<p>《Activity》</p> <p>6 自分が紹介したい行事やその行事でできることを伝える。</p> <p>① 発表に向けて練習をする。</p> <p>② 互いの発表を視聴し、アドバイスをしたり、よりよい発表について考えたりする。</p> <p>③ アドバイスをもとに発表に向けた練習をさらに行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 板書を参考にする、先生や友達に聞く、モデル動画を見る、自分が話す姿を撮って見る等の方法の中から選択することで、個人の課題に合った練習を行うことができるようにする。【個別最適イ】 ○ 発表の組み立て方が分からない児童が多数いる場合は、Let's Listen3 を全体で視聴し、内容を確認することで、自分の表現に生かすことができるようにする。 ○ 中間指導を行うことで、伝える相手の立場や伝える目的を再度明確にしたり、正しい発音を共有したりできるようにする。【協働的エ】 ○ もっと効果的な表現はないか、発音や声のトーン、大きさ、速さはどうか等、ペアでアドバイスをする時間を設けることで、発表をよりよいものにすることができるようにする。【協働的エ】 ○ 上手な児童の発表を視聴し、そのよさを話し合うことで、どうすればよい発表になるか気付き、自分の表現に生かすことができるようにする。【協働的エ】 ○ 自分が話す姿をタブレットで撮ることで、客観的に発表を評価、修正したり、自己の成長を実感したりできるようにする。【個別最適イ・ウ】 <p>※ 「話す〔発表〕」〈行動観察・動画・振り返りカード〉</p>	<p>季節 様子 行事 New year's day Setsubun Valentine's Day Doll's Festival Hanami Children's day Star Festival Full moon viewing Halloween Christmas</p> <p>【例文】 Hello. I'm ~. We have Fireworks festival in summer. You can see big fireworks. It's beautiful. You can buy delicious foods. I like shaved ice. It's nice.</p>
5	<p>《Review》</p> <p>7 学習したことを振り返る。</p> <p>8 あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 0☆ 児童のよかったところを称賛することで、達成感を味わわせるとともに、次時の活動の意欲を高めることができるようにする。【個別最適ウ】 	

8 板書計画

Big Goal	行事 ①	行事 ②	行事 ③	行事 ④	季節 ①	季節 ②	様子 ①	様子 ②
チャイニー先生に「楽しみだ」と思ってもらえるように日本の行事を伝えよう。	行事 ⑤	行事 ⑥	行事 ⑦	行事 ⑧	季節 ③	季節 ④	様子 ③	様子 ④
Today's Goal	We have <input type="text"/> in <input type="text"/> .				You can <input type="text"/> . It's <input type="text"/> .			
紹介したい行事やその行事ですること、できることなどを伝えよう。	様子 ⑤		様子 ⑥					
Communication Classroom English カード⑩								